

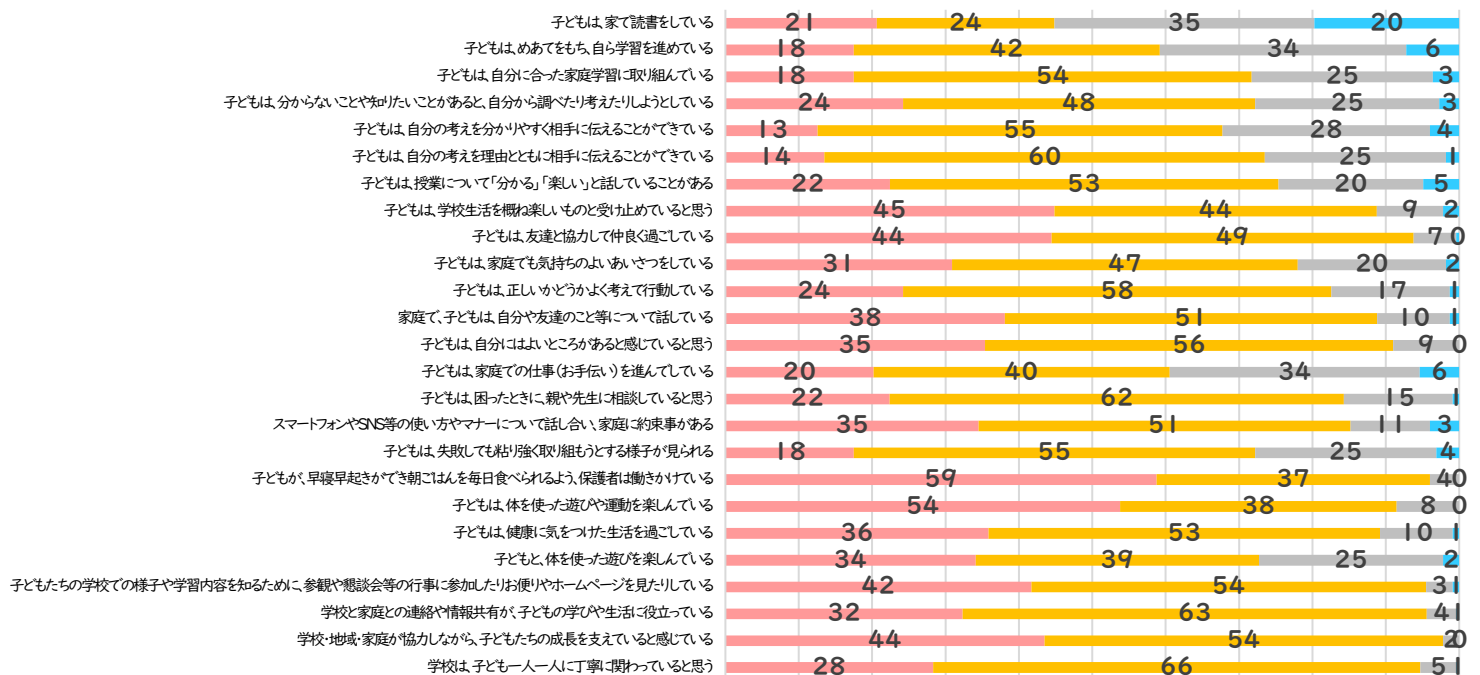


《児童・保護者アンケート結果のご報告》

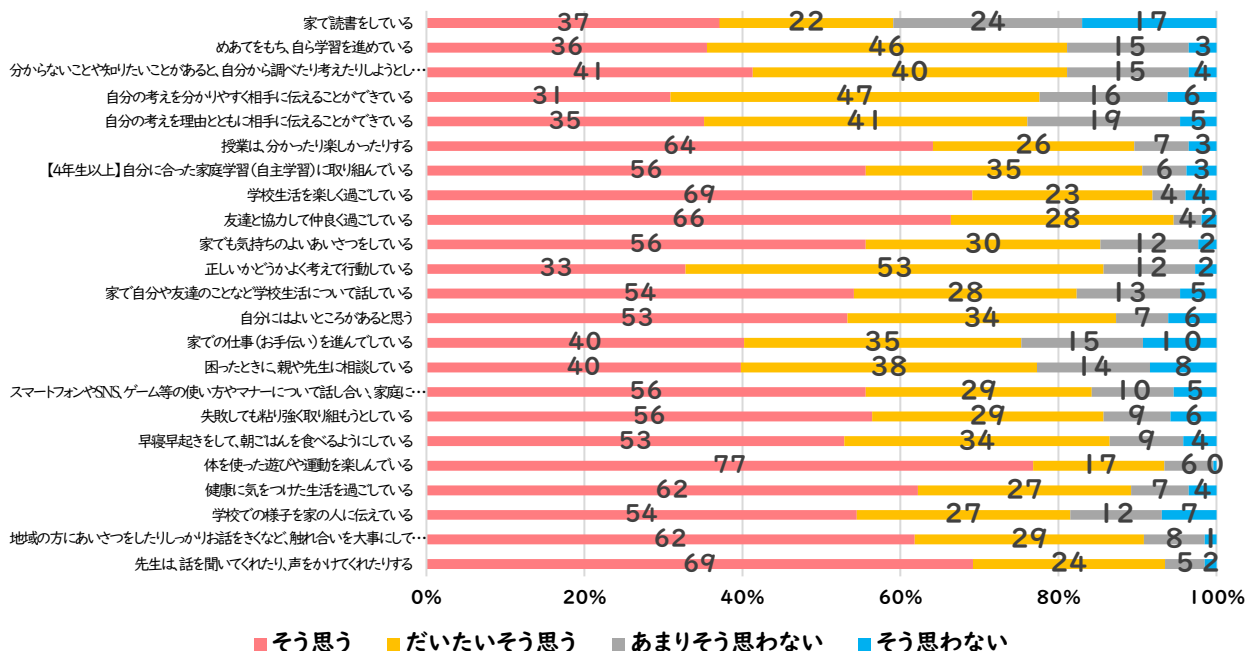
保護者の皆さまには、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

このたび7月に実施しました前期の保護者アンケートと児童アンケートの結果がまとまりました。アンケート結果からは、多くの子どもたちが楽しく学校生活を送り（肯定率91.9%）、友達と協力しながら過ごしている様子がうかがえました。また、学校と家庭、地域とのつながりについても多くの肯定的な回答をいただきました。一方で、読書や家庭学習などについては、今後も考えていかなければならない課題として見えてきました。結果の一部をご紹介します。

保護者アンケート



児童アンケート



1 共通してみられたよさ

・学校生活を楽しく過ごしている

児童 91.9%

保護者 88.8%



・友達と協力して仲良く過ごしている

児童 94.6%

保護者 93.7%

児童アンケート、保護者アンケートの双方からこの項目で多くの肯定的な回答が見られました。児童・保護者ともに、学校生活を前向きに捉えていることがうかがえます。

また、

・先生は話を聞いてくれたり声をかけてくれたりする（児童肯定率：93.4%）

・学校は子ども一人一人に丁寧に関わっている（保護者肯定率：94.6%）

・学校・地域・家庭が協力して子どもたちの成長を支えている（保護者肯定率：97.8%）

といった項目にも、多くの肯定的な回答が見られました。

本校の特色である「人とのつながり」が、子どもたちや保護者の皆様に肯定的に受け止められていることが分かりました。今後も、安心して過ごせる学級づくりや地域との交流活動、子どもたち一人一人に寄り添う関わりを大切に、本校のよさとしてさらに伸ばしていきたいと考えています。

2 共通して課題が見られたアンケート項目

・家で読書をしている

児童 59.1%

保護者 44.8%

・自分の考えを分かりやすく伝える

児童 77.6%

保護者 67.7%

・自分の考えを理由とともに伝える

児童 76.1%

保護者 73.5%

これらの項目は、児童・保護者ともに、他の項目と比べて肯定的な回答の割合が低い傾向が見られました。

「読書」「分かりやすく伝える」「理由を付けて伝える」という項目に共通したことから考えられることとして、読書と表現のつながりがあります。読書は単に本を読む活動ではなく、「想像する」「考える」「自分のペースで理解する」といった、言葉と向き合う活動でもあります。私たちの周りには様々な情報や楽しみがあふれていますが、言語活動を通してじっくり考える経験は、自分の考えを整理したり相手に伝えたりする力の土台になるものと考えられます。

特に読書習慣に関しては、昨年度のアンケートでも同様の傾向が見られており、本校児童の継続した課題の一つであると考えられます。

3 児童と保護者の見方の違い

「めあてをもち、自ら学習を進めている」については、

児童 81.1%

保護者 59.2% でした。



また、「分からないことを自分から調べたり考えたりしている」については、

児童 81.1%

保護者 72.2% でした。

これらの項目では、児童の方が肯定的に回答している傾向が見られました。

子どもたちは、自分なりに主体的に学ぼうと意識している一方で、その姿が家庭では見えにくい部分もあるのかもしれませんが。

4 学年比較から見える傾向

【読書習慣】

高学年で読書習慣の肯定率が低下する傾向が見られました。

児童アンケートでは、

低学年：71.7%

中学年：66.8%

高学年：42.4%



保護者アンケートでも、

低学年：48.4%

中学年：54.4%

高学年：32.9% となっています。

高学年になると、学習内容や学校内外での役割が増えるとともに、自分で時間の使い方を選択する機会も増えていきます。そのような中で、読書に親しむ時間の確保が難しくなっている（読書以外に時間を使う機会が増えた）ことも考えられます。

【授業への満足感】

「授業は分かったり楽しかったりする」について、児童アンケートでは全学年で肯定率は89.6%でした。

5 総括

児童・保護者の双方から、

- ・学校生活の楽しさ
- ・友達との関わり
- ・人とのつながり

について、多くの肯定的な回答が見られました。



一方で、

- ・読書習慣
- ・表現する力

については、課題として見えてきました。

また、「主体的な学習」については、児童と保護者で見方の違いも見られました。

【課題に対する今後の取組】

① 読書習慣

児童アンケート・保護者アンケートの双方において、「家で読書をしている」の肯定率が低く、今後も大切にしていきたいこととして見られました。高学年になると肯定率が低下する傾向も見られました。

<今後の取組>

本校では読書タイムや読書週間、教職員や図書ボランティアの方による読み聞かせ活動等を継続して実施しています。また、授業の中では、言語活動を通して、自分の考えを整理すること、理由を明らかにしながら説明すること、友達の考えを聞いてさらに考えを深めることを大切にしています。今後も、読書活動や日々の学習の中で言葉と向き合う経験を大切にしながら、自分の思いや考えを豊かに表現できる力を育てていきたいと考えています。

② 自分の考えを伝える力

「自分の考えを分かりやすく伝える」「理由とともに伝える」の項目は、児童・保護者双方において他の項目と比べて肯定的な回答の割合が低い傾向が見られました。

<今後の取組>

新たな活動を設けるのではなく、日々の授業や学校生活の中で、自分の考えを整理したり、友達に説明したりする機会を大切にしていきます。また、読書活動とも関連付けながら、言葉を通して考える力や表現する力の育成に努めていきます。

③ 主体的な学び

「めあてをもち、自ら学習を進めている」「分からないことを自分から調べたり考えたりしている」の項目では、児童の方が保護者よりも肯定的に回答している傾向が見られました。子どもたちは、自分なりに主体的に学ぼうと意識している一方で、その姿が家庭では見えにくい部分もあるのかもしれません。

今後は、授業参観や学習発表タイム等の機会を通して、子どもたちが自ら考え、選択し、学びを進めている姿を保護者の方に見ていただけるよう工夫していく必要があると考えています。また、日々の授業においても、子どもたちの主体的な学びの様子や成長が伝わるよう、発信のあり方についても工夫していきたいと考えています。

【あいあい山階（学校運営協議会）で得た意見】

- ・ 全国学力・学習状況調査の結果について、国語科の「140字以内でまとめる」問題は大人でも難しい内容であると感じた。AIで簡単にできる時代だからこそ、自分の力で考えたりまとめたりする力を育てることが大切であり、学校でそのような活動を取り入れていることに安心した。
- ・ 学力調査の結果については、単年度の結果だけでなく、年ごとの推移も見ていくことで、学校の取組の成果や課題を検証することができるのではないかと。
- ・ 児童アンケートの「学校生活を楽しく過ごしている」「友達と協力して仲良く過ごしている」などの肯定率が高く、子どもたちが安心して学校生活を送っている様子がうかがえた。
- ・ 児童館で子どもたちがジャンプをして楽しんでいる姿を見た。学校での取組が子どもたちの中に定着し、学校外の生活にもつながっていることが分かった。
- ・ 朝休みの外遊びについては、負担に感じる児童もいたと思われるが、学校が体力向上のために取り組んでいる意図やねらいを聞き、その取組について理解することができた。

今回のアンケートでは、「学校生活の楽しさ」や「人とのつながり」といった本校のよさが改めて確認できました。一方で、「読書習慣」や「自分の考えを伝えること」については、課題として見える結果となりました。今後も、子どもたちが言葉と向き合い、自分の考えを深めたり伝えたりする力を育むことを意識しながら、日々の教育活動の充実を図ってまいります。

教育活動へのご意見や、保護者の皆様が子どもたちに身に付けてほしいと考えておられる力についても聞かせていただき、ありがとうございました。今後の教育活動の参考にさせていただきます。

また、学校では保護者の皆様との対話を大切にしております。お子様のことや学校生活のことで気になること、ご心配なことがございましたら、アンケートの機会を待たず、ぜひその都度担任や学校へお知らせください。早い段階で情報を共有することが、子どもたちへのよりよい支援や対応につながると考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

